

# 夏季海外研修旅行報告

— タイ 2014年9月8-12日 —



帝京大学経済学部

編

客員教授 加賀美 充洋  
教授 長田 博

## 目次

- 1 概要
- 2 参加学生の感想文
  - 2-1 藤松 孝太
  - 2-2 長谷川 純也
  - 2-3 林田 真幸
  - 2-4 本田 脩人
  - 2-5 齋藤 高太
  - 2-6 土屋 篤紀
  - 2-7 山口 結
  - 2-8 眞下 遥

### 1 概要

帝京大学経済学部では、2013年から一般財団法人ワンアジア財団の支援をうけて「アジアにおける経済統合と共同体」（廣田功）という授業を行っている。この授業は8人の専門家が現在進行中のアセアン経済共同体（AEC）、地域包括的経済連携（RCEP）、環太平洋経済連携（TPP）等を欧州連合（EU）とも比較しながらオムニバス方式で論じている。特に中国、韓国、日本、インド、インドネシア、米国等の専門家がそれらの国から見た経済統合への立場を説明し、今後の動向を解説している。昨年の授業内容は、廣田功・加賀美充洋編『東アジアにおける経済統合と共同体』（日本経済評論社 2014）としてまとめられ出版された。

この授業の一環として夏季研修旅行を行っている。アジアに行き、その国の経済・社会を自分の目で見て、人々と会って実際に話す実地体験をし、日本を含めた外国の投資状況を知ることは、学生にとって今後の進路選択にも影響するので大変重要であると考えられる。本年も昨年に引き続き実施された。予算、日程等から今年もタイのバンコクが選ばれて9月8日-12日に訪問した。春学期中間試験の成績優秀者から8名が選ばれて参加した。それらは以下の通り。

#### 参加者一覧

- |   |        |      |     |
|---|--------|------|-----|
| 1 | 藤松 孝太  | 経済学科 | 3年生 |
| 2 | 長谷川 純也 | 経済学科 | 2年生 |
| 3 | 林田 真幸  | 経済学科 | 2年生 |
| 4 | 本田 脩人  | 経営学科 | 3年生 |

5	齋藤 高太	経営学科	2年生
6	土屋 篤紀	経営学科	2年生
7	山口 結	観光経営学科	2年生
8	眞下 遥	観光経営学科	2年生

なお引率は、長田博教授と加賀美充洋客員教授の2名が行った。

またスケジュール、訪問先、講師等は以下の通りであった。

- 9月8日(月) 出発 成田—>バンコク JAL便
- 9月9日(火) 10:00—12:00 タイ財務省  
ナリス財政政策局長、ルエチャ財政分析・企画担当官(タイ経済について)
- 14:00—16:00 タイ投資委員会(BOI)  
チャトサエン投資促進担当官(タイへの外国投資について)
- 9月10日(水) 9:00—11:00 タイ・デンソー工場(Siam DENSO Manufacturing Co. アマタ・ナコン)  
加藤之弘社長、永井正峰ジェネラルマネジャー(工場説明)、岡崎彰徳副社長(DENSO International Asia Co.)等
- 14:00—17:00 パンヤピワット経営学院(PIM)  
ソンポップ学長、ティパワン教養学部長、ウサネー国際関係事務次長、ウィラユット・ビジネス日本語プログラム長等  
大学見学ならびに学生との小グループ対話方式での交流
- 19:00—21:00 日経新聞高橋徹バンコク支局長と懇談
- 9月11日(木) 9:00—11:00 ジェトロ・バンコク研究センター  
山田康博所長、黒岩郁雄主任研究員(経済統合について)、初鹿野直美研究員(カンボジアからタイへの労働移動について)
- 14:00—15:30 ワット・プラケオ見学
- 17:00—19:00 アジアティーク・ザ・リバーフロント見学
- 9月12日(金) 帰国 バンコク—>成田 JAL便

なお研修中の写真については帝京大学の下記のウェブサイトを参照して頂きたい。

①□帝京大学ホームページ▼八王子キャンパスニュース

[http://www.teikyo-u.ac.jp/campus\\_news/hachioji/2014/0919\\_3835.html](http://www.teikyo-u.ac.jp/campus_news/hachioji/2014/0919_3835.html)

② 帝京大学 Facebook

<https://www.facebook.com/pages/%E5%B8%9D%E4%BA%AC%E5%A4%A7%E5%AD%A6Teikyo-University/375355882564075>

## 2 参加学生の感想文

以下に参加学生の研修旅行に関する率直な感想文を紹介する。感想文は、研修プログラムの中で特に印象に残ったものについてと、旅行全体の感想を記している。参加者8人は、全員タイは初めて訪問する国であった。

### 2-1 藤松 孝太

#### (1) PIMでの説明と実際に見学しての感想

パンヤピワット経営大学（PIM）はタイの財閥系の会社が運営しており、セブンイレブンを経営して多くの利益を生み出している。将来的には1万店舗を目指しており、今後も期待が出来る企業だと感じました。PIMは日本と同じように学部が存在し、ビジネス経営学部は三か月の勉強を通したのち、職場に配属され、また勉強の繰り返しを行い、夏休みなどの長期休暇は存在しませんでした。その為、常に勉学に励む体制となっており、実際に就学している生徒のやる気も日本の大学とは大きく異なった印象を受けました。1年時はコンビニ、2年時は流通関係、3年時はオフィス関係の仕事を行い、自身のキャリアアップを常に図っているとのことでした。実際に構内を見学させていただきましたが、日本の大学とは規模も大きく異なり、ガラス張りの建物が多く見受けられました。日本と比較すると地震が少ないため、これほどのものを作っても問題ないとのことでした。

設備面では日本の大学よりも優秀なところも多く見受けられ、今までのタイのイメージと大きく異なり、かなり驚かされました。オープンスペースが多くあり、どこでも勉強をすることやグループディスカッションをすることが出来る環境が多く設置されているところが日本の大学に通っている私自身が羨ましいと感じました。最終的に実際に通っている1年生の生徒さんと交流する時間があつたのですが三か月程しか日本語を学んでいないにも関わらず、平仮名、カタカナは簡単には理解しており、たった三か月でここまで出来るようになるのかと思うとタイの方のハングリー精神には驚愕を隠せませんでした。かなり出来る子は漢字も簡単なのはマスターしており、普通に会話をする分には何不自由することはありませんでした。将来的には帝京大学との交換留学があるとのことでしたが、ここまで日本語を話すことが出来るならば、全く問題ないと感じました。

#### (2) 実際にタイを訪れて感じたこと

タイを訪れて最初に思ったことは日本と比べてそんなに変わらないかかもしれないと思いました。タイのイメージはジャングルの中に藁の家があるようなイメージでしたが全然そんなことはなく、車が日本よりも多く走っており、しかも日本のトヨタの車が多く走っていました。日本国内よりも日本車が多いよう印象を受けました。マツダのセダンも時々見かけましたが、タクシーは全部トヨタの車ばかりでビックリしました。車の交通量にも驚きでしたが、どの車も強引で何度もぶつかりそうになりました。しかも歩行

者にもものすごく近いのにもかかわらず、かなりのスピードが出ており、自由すぎると感じました。さらに驚きだったのがたくさんのバイクが信号待ちをしている光景がまるで暴走族がいるような印象を受ける程でかなり異様でした。それだけならまだしも歩道をバイクに乗ったまま走っており、日本ではありえない光景でした。車の車線変更はかなり強引で、スピードはすごいのでこの先不安だなと初日から思っていました。車は全体的に白くなっているものが多くあり、ワゴンやセダンが中心で軽自動車はほとんど走っておらず、まるで日本のバブルの時のような印象を受けました。車が白くなっている原因はおそらく、まだ道路の整備がきちんと終わっておらず、凸凹しているところも多かったせいだと思います。道路や道だけを見ているとまるで戦後の日本のような感じでこれから発展していく国の印象を受けました。車だけを見るとバブルの日本で道路だけを見ると戦後の日本で何ともアンバランスな印象を受けました。発展途上国は日本と違いかなりいびつな状態であるのだと実感させられました。ホテルは当たり前ですが浴衣ではなくバスローブで、バスタブの水がきちんと流れず、最初はびっくりさせられましたが、栓の開け口のネジが壊れているだけで押さえれば何とか流れました。先生に聞いた所、「昔は水が逆流してきて、部屋中が水びたしになったこともあったとの事だったので、その程度なら全然マシだよ」とのことでした。

発展途上国は我々の世代から考えるとありえないこと尽くしでした。他にもドライヤーが使えなかったり、部屋にBOXティッシュが無かったり、トイレのティッシュがロールではなく、ちり紙みたいな感じで使うのが大変だったりして、かなり生活をするには不便だなと感じました。見学に行った先のトイレも手を拭くのが紙ではなく、ロール状のタオルで、最初は使い方が分からずに戸惑いました。トイレの衛生陶器は日本のTOTOではなく、COTTOと書かれており、日本とは異なりました。エレベーターは日本製の物しか見かけず、テレビやパソコンはLGやDELL、SAMSUNGのものが多くあり、電化製品のほとんどは韓国製が増えているのだなと思知らされました。町の中で感じたことは工事中的高層ビルが多く存在し、生活している人は私達の世代と同じ位の人が多く、活気に溢れていて、日本よりも元気な国だなと感じました。昼間はそんなに感じ無かったのですが、夜になると排水口のヘドロのような臭いが充満して、さらにドリアンの臭いがトドメを刺すという最悪な状態になりました。バスにはガラスが無く、そこからゴミを捨てたりするので衛生面的には日本よりも悪い環境かなと感じました。露店にもいききましたが、そこには高級ブランドの商品が多く展示してあり、それらのほとんどは偽物との事でした。最終日に行ったASIATIQUEでは「偽物、本物にそっくりな偽物」と日本語で言われ、ビックリしました。そんなに自信満々に言われても困るんではないかと思いました。偽物が悪いという価値観が日本と比べて少ないのではないかと感じました。料理関連ではパクチーが苦くトムヤムクンに入っていたりして食べるのが大変でした。トムヤムクンは最初は辛いのですが、途中から酸っぱくなったりして、食べている途中で何を食べているのか良く分からなくなってきてしまいました。

日経新聞のバンコク支店長の人との会食の時に飲んだヤシの実のジュースは甘くて美

味しかったです。注文した後、普通にコップでくると思っていたのですが、実がそのままきて、かなりビックリでした。一緒に頼んだマンゴージュースの味は忘れられない程クリーミーな味でした。あのジュースを飲むためにもう一度タイに行きたいくらいです。今回タイを訪問して感じたことはやはり、若い世代が多くないと疲れた印象を受ける国になってしまうと思いました。バンコクから日本に帰ってきて、電車に乗っているときに日本は疲れ果てた国だと感じました。日本人として、活気ある国を作るために今後はより一層努力して行きたいと感じた一週間でした。

## 2-2 長谷川 純也

### (1) タイについて学んだこと

アジアにおける経済統合と共同体でいった今回の研修でタイにいかせてもらい、学んだことは自分にとって海外に行くことじたいが新鮮で日本とは全く違う世界に飛び込んで行き最初から最後まで全てのことが学びでした。

その中でも印象に残っていることは幾つかありました。まず飛行機に乗るまでにパスポートを見せたり荷物を預けたり、そういうことも1人ではわからないこと、だったので多くを学ぶことができました。タイの人は働くことがほんとに好きではなく、最低限生きていければ良いという考え方みたいで、それ以上はあまり求めないと言っていました。日本の人は大きい家に住みたいとか、貯金をして老後に備えろとか、自分の好きなものを買いたいとか色々な欲があるのに、タイの人達は、生きられれば満足という考え方に日本との違いを感じる事ができました。

向こうにいて他の国の方、日本人も含めて多くの方がいたのは驚きでした。中でもカンボジアの研究をしている方にお話を聞きカンボジアでは約60万人もタイに仕事を求めて滞在していると聞き、後進国の実態を知りました。10年前に比べると大きく変わり、前進しているということも言っていたので実際に訪れたいという感情さえ出てきました。タイに住んでいるカンボジア人だからといって何か違反などをすると警察からは多くお金を取られてしまうなど、まだまだ扱いが酷い状況に置かれているみたいです。日本ではそういうことはないと思いますが、深く考えさせられました。

そしてタイに行き始めて値切り交渉をしました。下げすぎても買えないし向こうの人も買ってもらうことが第一で、それに高く買ってもらいたいのですごく必死でした。英語は出来ないけど、動作や電卓を使い上手く交渉することができ貴重な体験になりました。

この研修で1番変わったことと言えば海外に対する考え方です。実際に行って見にいて肌で感じる事、向こうの人と関わり、雰囲気味わうだけでも日本とは180度違う世界に訪れることができたのでとても良かったと思っています。これを機に視野を広げていき恐れずに色々なことに挑戦していけたら自分としてさらに成長していけるのではないかと、この研修で学びました。

## (2) 感想

私は、海外に行くのも今回が2回目で、タイに行ってみてまず自分が思っていた部分と、自分がイメージしていなかったところがありました。まず思っていた通りだったのは、街の雰囲気、匂いのところは思っていた感じと同じでした。逆に違った部分はビルがいっぱいあって思ったより都会だった所と、治安がそこまで悪くなかったというところでした。毎日屋台がやっていて、歩いていると必ずタクシーに乗らないかと誘われ、それでも治安はそんな悪い風には思わなかったです。夜に向こうのセブンイレブンに行った時も怖さをそんなに感じることもなくいけることができました。セブンイレブンの中には数多くの日本の商品が置いてあって、不思議な感じでした。匂いはタイ独特で香辛料の匂いなのかなにかわからないですが、最後まで慣れることができませんでした。

一日目からタイの財務省に訪れてタイ経済のお話を聞かせてもらい今は非常に安定しているとのことでした。向こうの方が英語で話しをされているのを聞いてほとんど理解できず先生方が訳してくれなかったら全くわかりませんでした。英語力は大切だしできたら絶対に特だなと改めて感じさせられました。

タイの食事は全部同じ味付けに感じてしまい、辛いのと酸っぱいのを合わせたような味付けでした。食べる時は、小皿はなくご飯のお皿におかずをのせフォークとスプーンを使って食べるのも文化の違いを感じることができました。

タイの街を車で移動するときは凄い交通量で交通ルールがあるのかわからないぐらいめちゃくちゃでした。横の道からは強引に入って来る事や、バイクは何台も車を追い越して行き常に車間距離はすれすれ状態、タイの人の運転技術には驚かされました。実際にタイのタクシートゥクトゥクに乗った時は4人乗りで、アトラクションに乗っているかのような面白さで、窓はついていないし外見もカラフルなので街中では目立ちました。日本円で三百円ってところにも驚いたし、向こうでは安いのか高いのかわからずに乗っていました。

ホテルでは部屋も広くて朝食はバイキング形式で日本にもある様なメニューがありました。ここではたくさん食べることができました。結局タイの料理は合わなくてほとんど食べることができなかったのは残念です。部屋ではみんなで集まったりして、それもまたこの研修で楽しかったことのひとつです。

この3日間普段経験することのできないことを経験できました。自分たちは集合場所に集合して飛行機に乗り、向こうに行けば移動は全てバス、ホテルもとってくださり何から何まで先生方にはお世話になりました。先生方と行く機会を設けてもらえたことにも感謝しています。これを機に海外に対する考え方も変わり留学をふくめて海外に行きたいという気持ちが行く前と比べて大きく変わりました。タイに限らず海外にいったさらに自分の世界を広げられる様にできたら良いなと思っています。

## (1) 研修で印象深い、学んだこと

今回、タイの研修で私が思う印象深いこと、学んだことはすべてが良いもので今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができいいものでありましたが、特に印象に残っているものは2つあります。

まず1つ目はタイの人たちの最低賃金です。最低賃金の日収が300バーツ。日本円にして約900円程度ということに日本との違いを感じました。ちなみに日本の場合は最低賃金時給の全国平均が780円となり一日8時間働いたとして6240円。日収で約7倍の差があり、予想より大きな差だったことで驚いたとともに印象に残りました。

2つ目はPIMの大学見学と大学生との交流です。大学見学ではまだ完成して7年であり、とてもきれいなキャンパスが印象に残っています。地上から天井まで伸びる吹き抜け。町が一望できるウッドデッキと、大学ということのを忘れてしまいそうな場所が多く、「こんなキャンパスで学びたいな」と思わせてくれるキャンパスでした。タイの大学生との交流では、最初は「言葉が通じそうにないけど大丈夫かな」という心配などでとても緊張していました。しかし、いざ交流を開始してみるとタイの学生の巧みな日本語に助けられ、始まる前までしていた緊張を一気に吹き飛ばしてくれました。所々通じない日本語や、私がタイ語、英語をわからないために困惑する場面もありましたが、ジェスチャーなどで通じ合うこともできるのだなということ学びました。この交流の中でも特に印象深いものは、タイの学生の日本語の上手さです。まだ入学して5か月程度だと思われそうですが、ほんとに上手だったということが印象に残っています。

他にもタイの財務省で学ばせていただき局長の方が出向いてくださったりして、とても驚きましたし、タイ在住の海外ジャーナリストの方と会食し、タイの情勢、海外ジャーナリストのことなどとても興味深いことを教えていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

## (2) 旅の感想、感じたこと

今回のタイの研修旅行での感想、感じたことは私自身初めての海外ということで、ほとんどのことが初めてで新鮮に感じられました。移動の飛行機では、初めて6時間以上も航空機に乗り、機内食を食べてと。中でも一緒に搭乗した人たちの半分近くかそれ以上の方々が日本人以外ということとてもグローバルでした。そのためか、私自身の隣に座った方もアメリカ人の女性の方で、隣に座ってすぐに「hello」というあいさつをされました。外国人の方と仲良くなれるいい機会だと思い、「日本語を話すことはできますか」と問いかけたら「I don't speak Japanese」と言われとても戸惑いました。それでも私の下手くそな英語とジェスチャーを真剣に聞いてくださり、飛行機を降りる際に一緒に写真を撮ってくれました。とてもうれしかったです。英語をペラペラと話せないということが悔しかったです。

タイに着いてからは野良犬か飼い犬かはわからなかったですが、街中を徘徊している犬の多さに驚きました。交通事情については車の交通量は多かったですが道路の所々に、



やはり日本とは違い凹凸が多かったのが少し気になりました。特に気になったのは運転が雑な人がいるなどということと、スクーターに二人乗りは当たり前。中には三人乗り、最高で見たので四人乗りをしている人がいたということです。また私たち日本人はバイク等に乗るときにヘルメットを被るのは当たり前で必ずかぶっていますが、タイの人たちはヘルメットを被っている人が少なかったことには驚きました。

タイの観光については、まずバイヨークタワーにのぼりました。高さ 304m、地上 85 階建ての建物はとても迫力がありました。屋上付近で外に出ることができる場所があり、バンコクを一望することができました。ここで気づいたのがバンコクというか、タイは日本のように丘や山がほとんどなく平地なのだなど気づきました。スカイレストランもあり、バンコクの美しい夜景を見ることもできとても満足をしました。

もう一か所はワット・プラケオ、プラマハーモンティエンの建造物群を見ました。今まで見たことのない黄金に包まれた寺院の迫力は生で見ないとわからない凄さがあり、生きているうちに一度行くことができとてもよかったです。エメラルド仏寺院はエメラルド仏がいらっしゃいました。参拝者が日本とは違う作法で参拝していたため、思わずその人たちを真似て参拝していました。

以上のように今回の研修旅行ではいままでに知らなかったこと、知らなかった場所を知ることができた学習の面と観光の面のバランスの取れたとても有意義な時間でした。あっという間に終わってしまいましたが、中身の濃い研修旅行で連れて行っていただき本当に感謝しています。また、海外に行ったことで英語ができないととても不便だとしみじみと実感させられました。私はほんとに英語が苦手なので、英語というものを今まで避けていました。しかし今回、外国人の方とコミュニケーションを取りたいと強く思いました。そのため今回の研修では東アジアのことを学べたのはもちろん、私自身の中でも「英語を学びたい」という今まで避けていたものを逆に求める気持ちが芽生えました。

今回このような機会を作っていただいた大学関係者の方々や引率の先生、ワンアジア財団の方などに感謝いたします。ありがとうございました。

## 2-4 本田 脩人

### (1) 研修で印象に残ったこと

タイでは財務庁、タイ投資委員会、デンソー、PIM、JETRO でお話を聞くことができ、中でも私は財務庁の方がお話してくださったタイ経済についてとデンソーの工場見学はとても印象に残り勉強になったと感じています。

タイの経済は現在変動に流されない安定した経済であるがその経済発展により裕福な生活をおくっている一方農村部では貧困問題に苦しめられており、貧富問題に対し政府は一村一品運動という村各々で主要製品をつくり出すことで貧富の問題を解決していこうという政策を行い貧富の問題解消にむけて努力をしている。しかしながら GINI 指標 (0 に近いほど平等、1 に近いほど不平等) で見ると約 20 年間 0.5 前後であり 2011 年

には0.48と解決となると思われる0.4にはいまだに届いていない。

バンコクの街を見ているとホームレスも多くみられお椀を持ちお金をねだっている人も存在し、やはりまだ貧富の差の解消には時間がかかるのではと私は思いました。貧困問題解消には農村部だけではなく今回自分が行った富裕層の多いバンコク市内でも解決に向け取り組みを行っていくべきであると考えます。

デンソーの工場は働いている従業員の多くが女性でした。日本では社会に出て働くのは男性の方が多く女性は結婚し専業主婦になるのが主ですがタイでは女性の社会進出が進んでいる。タイでは工場でも農村でも多くの女性が就業しているというのには私は驚きました。日本では出産後女性は育児に専念するために退社をすることが多く、女性は約6割が結婚して子供が生まれ退社をしている。それに対しタイでは子供が産まれた後でも育児休暇の受け入れ体制なども整っており長期的に働く女性が多い。タイでは工場などが拡大していき女性が収入を得られる労働をする割合を増やすことで国内消費の拡大につながり経済がさらに発展したと考えられる。

## (2) 一般的感想

現在日本人からみたタイのイメージは辛い料理、ムエタイなどあると思うが、1番に思う事はやはり危ない、怖いといった印象であると思う。実際私も行く前はクーデターなどもあり危険な国であると思っていました。しかし行ってみると治安は悪くなく、観光したりするにも危険を感じるようなことはありませんでした。実際街中を歩いていてもしつこい客引きなどもなく最終日に行ったアジアティーク・ザ・リバーフロントでは気さくな店員さんが多く楽しくショッピングをすることもできました。

タイは日本人が思っているほど危険な国ではなく安心して観光できる良い国であるとタイ投資委員会の方はおっしゃっていました。私はタイには初めて行ったのですが、行く前のタイのイメージと現在のイメージでは大きく異なり今では経済的にも発展をしており現地で色々な方のお話を聞き、PIMの学生やお店の店員さんなどと交流をしてタイについてより深く知りたいと思い、また、今回の研修を活かし今後経済学部生とし更に経済について勉強を重ねていきたいと感じました。

## 2-5 齋藤 高太

### (1) 研修について

私たちは、アジア経済統合と共同体という授業でタイ研修五日間、経済について学んだ。目的は、現在アジア経済で何が起きており、それが日本の経済とどうかかわり自分たちの進路にどう影響するか、タイを実際に知るにより国際化につなげることである。

五日間、タイに研修に行っただことはタイの経済の経済状況である。タイの財務省を訪れ、最近の経済状況、将来像など詳しく話しをして頂いた。

タイ経済は、リーマンショック(2008)と大洪水(2011)という二度のショックを乗り越

え、その堅調ぶりが注目されている。タイでは、物価が安定し、失業率も低い。タイの失業率の低さは、農業部門が、工業部門やサービス部門からの離職者の雇用の受け皿として機能することが大きな原因と考えられている。タイ経済の成長の源泉は、外資導入による輸出指向工業化であり、それを支えてきたのが、投資環境の良さであった。整ったインフラや、幅広い産業集積の存在が、タイの強みであり、これが日本企業を中心に多くの外資系企業を吸引する原動力であった。タイの投資環境は進出しやすさという観点から総合的にみれば、中国やベトナムよりも優れているといえる。

タイ経済は、前進させるため、NCPO(国家平和秩序評議会)が今後取り組みたいこととして①国の競争力強化、②格差訂正、③環境の配慮、④政府内の組織改革の4つがある。①の国の競争力強化は、教育や技術改新、組織改革、②の格差是正は貧困税などの導入検討、③の環境の配慮はエネルギー政策、④の政府内の組織改革は法的処理などの対策がある。将来像としてタイの今年の成長率は2パーセントと予測している。また来年は4～5パーセントまでいくと予想している。そのためにはいくつかの政策があり、内閣で決めている。いくつかの対策の例としてプランニングで働いている講師のオークさんは、共通のイメージを持つこと、海外からタイに投資しても良いと信頼を持たせることが重要だと話していた。また、タイは日本と同様高齢化も深刻な問題である。

もう一つ印象深いと感じたことは、ジェットロでのタイにおける外国人労働者についてである。主にカンボジア人労働者の大量帰国事件。2014年6月10日前後に約25万人のカンボジア人労働者がタイから一斉に帰国した。理由は5月のクーデター後、外国人労働者取り締まり強化、一斉摘発するという噂、さらに「射殺」の噂が原因である。その後、両国政府の協力で、速やかにタイに帰還、復職させる試みが行われた。カンボジア人にとっての出稼ぎ先の例として、タイ、マレーシア、韓国が挙げられている。外国人労働者はタイ経済を支えている。

このようにタイ経済について詳しく学ぶことができ、とても貴重な時間を過ごせた。思っている以上にタイは発展していることが分かった。今後の勉学に活かしていきたい。

## (2) 一般的感想

海外に研修しに行くのが、初めてだったので不安でいっぱいだった。しかし、研修に行ったことで多くのことを学ぶことができた。また留学したいという気持ちが強まった。タイの大学に行き、タイの学生とコミュニケーションをとるとなった時に不安と緊張で固まってしまった。しかし、いざ話してみるとぎこちない英語でも話すことができた。外国人と話すことを楽しいと感じた。

タイは思っている以上に多くのビルが建っていて夜景などがきれいだった。私のタイに行く前のイメージは、さほど発展はしておらず高層ビルはなく、少し自然に囲まれている国だと思っていた。タイの移動手段は、主に車とバイクで車は日本車が多い。特にバイクの数が多く二人乗りが当たり前で、ごくまれに三人乗りをしている人々もいた。またスピードも出ている、日本では見ることのできない光景だった。交通面はあまりよ

くないと感じた。

また、タイの人々はフレンドリーで観光客にも優しく対応していた。ぎこちない英語も理解して、親切にわかりやすいように返事をしてくる人々が多かった。

最後に、短期間の研修でしたが、一日一日が貴重な体験ばかりで学ぶことが多かった。タイの良さも知ることができた。このような貴重な体験を将来活かせたらいいと思う。

## 2-6 土屋 篤紀

### (1) 研修について

「アジアにおける経済統合と共同体」の研修旅行としてタイに5日間滞在し、多くのことを学んだ。

まず、財務省財務局ではタイの経済について学んだ。タイではたびたび経済危機に見舞われるが、そのたびすぐ回復するなど、世界の影響をあまり受けず大変強い経済で安定している。失業率を見ても0.7%と低く、インフレは2%以下など基本的指標がものすごく良い。将来像としては、今年の経済成長率は2%を予測し、来年は4~5%の成長率を目指している。そのためには、国民の自信や共通のイメージが必要不可欠で、それによりまだまだタイ経済は伸び代がある。タイ経済を前進させるため、国家平和秩序評議会(NCPO)が今後取り組みたいこととして国の競争力強化、格差是正、環境配慮、政府の組織改革の主な4つがある。国の競争力強化→教育やイノベーション、格差是正→貧困税などの導入検討、環境配慮→エネルギー政策、政府の組織改革→法的処置などのそれぞれ対策があり、このような形で目標達成を目指す。また、日本と同様高齢化も深刻な問題であり、その対策も行われている。

そしてBOI(タイ投資委員会)、ここでは主に投資について学んだ。1977年に投資奨励法が改正され、BOIの権限強化と手続の効率化が図られ、BOIによる奨励策の基本方針決定、奨励策の実施、BOIの運営、権限等に関する事項が定められた。1977年投資奨励法に基づき、BOIの権限が委譲されたBOI事務局は、案件の審査など様々な活動を行っている。BOIは国内外の企業を分け隔てなく平等に扱い投資を行っており、それにより国内で競争力が生まれ、経済にいい影響が及ぼされることを理想としている。最大の投資国は日本でそれはこの先も変わらないと見ている。

CPG(チャロン・ポカパン・グループ)はタイ全国にセブンイレブンを現在8000店舗以上経営しており、今後全国1万店を目処に展開するつもりでいる。因みに日本は全国1万2千店舗ほどで、日本と比べても思ったほど差はなく、規模の大きさが伺える。CPGはその他にもCPF(チャロン・ポカパン・フーズ)なる食品会社や、PIM大学(パンヤピワット経営学院)を運営するなど、タイ・中国・ベトナム等を中心としたアジア地域において、食料、小売、情報通信、金融・保険等さまざまなビジネスを展開するアジア有数の大手複合企業。特に中核の飼料事業は世界最大級。中国系タイ人である謝一族をオーナーとし、1920年代にタイで創業、野菜種子の取扱を開始した後、飼料製造、畜産物・水産物生産へと進出し、タイ国内での事業を拡大した。更に食品加工事業、小

売事業にも参入し、タイの食料分野においても川上から川下に至るバリエーションを構築している。1970年代以降、外資企業としていち早く中国市場へ参入、中国においても飼料製造、畜産物生産、食品加工、小売業へ進出。1990年代以降は小売業、通信事業へと更なる多角化を図り、近年においても大型買収を通じ、事業を拡大している。

タイ経済を世界基準で見ても、ASEANの中でもインドネシアに次いで2番目のGDPを誇り、一人当たりで換算すると約6000ドル、これは経済大国中国とほぼ同じ位の水準である。

このように、タイは私の考えているよりもずっと発展しており、それは今後もまだまだとどまるところを知らず、そんなタイ経済を肌で感じ学ぶことができたことはとても貴重なことであり今後の勉学に活かしていきたい。

## (2) 旅行の感想

タイに行った感想としては、やはり先にも述べたとおり、想像以上に発展しており何よりも驚かされた。タイへ行く前はバンコクなどが発展しているといっても日本ほどの都市ではないと思っていたが、高層ビルは東京に負けず劣らずたくさんあり、日本との違いはそれほど感じられなかった。また、タイの人々は日本語が堪能な方が多く、街中を歩いていると日本語で話しかけられることが多く、驚きと同時に日本から訪れる観光客の多さも実感させられた。移動手段としては主に車とバイクで、しかも日本車が圧倒的な数を占めており、特にバイクの数が多く、信号待ちで何十台ものバイクが停まっているときは唖然とした。ただ交通マナーや道路状況はあまり宜しくなく、道は凸凹で車線がないところでも普通に走り、高速道路では(タイでは普通なのかもしれないが)考えられないスピードで走るなど、日本ではまず見ることはない光景を目の当たりにし、やはり日本は安全でいいところだと感じた。

だが、先ほども日本語が堪能な方が多いと言ったが、本当に現地の人に話しかけても優しい人やフレンドリーな人ばかりで、観光客慣れをしているのか下手な英語でも何とか理解しようとしてくれ、親切に答えてくれる人が多く、困っていると話しかけてくれる人までいるなど、日本ではあまりなじみのない事に感じる部分も多く、日本も学ぶべきところがたくさんあると感じた。

最後に、当然のことながらいろいろなことが日本と違い戸惑いもあったが、行くことでタイの良さがわかる反面、日本の良いところがたくさん見えてきた研修だったと思う。そしてこの研修期間で見たものまだまだタイの一部でしかないと思うので、ぜひもう一度、今度はプライベートで行ってみたいと思った。

## 2-7 山口 結

### (1) 研修について

今回、この四泊五日の研修旅行でとても貴重な体験をさせていただきました。私は今まで一度も海外へ行ったことがなく、今回このタイの研修旅行は見るもの感じるものす

べてがとても新鮮でした。

研修一日目は、タイの財務省と投資委員会を訪問し、バイヨークシティーホテルへ行きました。財務省では、最近のタイの経済状況について学び、リーマンショックや水害、首相が変わったことにより経済状況は変動している中成長を成し遂げていること、この先行わなければいけない課題や様々な政策を知ることができました。そしてこの財務省ではMINTというタイの造幣局がありコインだけでなく等級を示す勲章が作られていること、次回開催される造幣局長の会議がタイで行われることを初めて知りました。また、この日は財務省の局長さんにお昼をご馳走になり、私は初めて本格的なタイ料理をいただきました。どの料理もとても辛かったですが、タイの文化を体験することができました。

投資委員会では、バンコクというタイの中心地に OSOS という新しい投資家サービスセンターを設立し、一カ所で投資に関するサービスを行うという新しい取り組みについて学ぶことができました。タイ全体の地域経済を促進するため、バンコクから遠くなるにつれて恩典を多くするという新しい政策や最近の投資動向について知ることができました。

バイヨークシティーホテルではタイで一番高いビルということもあり、バンコク市内を一望することができました。またここではビュッフェをいただき、和食がたくさん用意されていたことに驚きました。バイヨークシティーホテルの周辺には市場があり、洋服や雑貨食べ物を売っており、日本では見られない光景を見ることができました。

研修二日目は、デンソーの工場とパンヤピワット経営学院を訪問しました。デンソーの工場ではここで作られているディーゼル車のコモンレールシステムについての説明や会社の説明を聞き、実際に工場内の見学をさせていただきました。従業員の7割が女性であることや65%が高卒者であることタイの最低賃金が日本円で900円であることなど日本との違いを感じました。今様々な日本の企業がASEANに進出しており、その指導を生で見学することができとても貴重な体験となりました。

パンヤピワット経営学院ではCPGやPIMの説明、校内見学やタイの学生との交流をしました。この学生との交流は今回の旅行の中で特に印象に残っています。日本について勉強していることもあり「日本に行きたい」「日本が大好き」と口をそろえており、とても嬉しく感じました。そしてこの日は日経新聞のバンコク支局長さんと夕食をとりました。デモを目の当たりにした当時の状況などとても貴重なお話を伺うことができました。

研修三日目は、JETROバンコク研修センターを訪問し、ワット・プラケオを見学しアジアティーク・ザ・リバーフロントで買い物をしました。JETROバンコク研究センターでは、カンボジアとタイの現状やJETROバンコク研究センターについてお話を伺いました。最近では技術が必要なものはタイで製造され、簡単な組み立て作業はカンボジアで行われ生産しているため、カンボジアは300ドルだった一人当たりGDPも1000ドルとなり経済成長をしていることを学びました。そしてカンボジアでは、ほとんどの

人がタイに出稼ぎに行ってしまうため少子高齢化が進んでいること、タイのように完璧な道の整備がされていないことなど様々な現状を知ることができました。これから ASEAN が発展していくためにも重要な問題点の一つなのではないかと思いました。

そしてワット・プラケオやアジアティーク・ザ・リバーフロントでは建築物やタイのお土産などを見ることができタイの文化を知ることが出来ました。またこの二つの観光地では多様な地域の観光客を目にしました。ワット・プラケオでは様々な言語のパンフレットが用意されており、アジアティーク・ザ・リバーフロントではお店の店員さんが日本語と英語を話すことができる人がほとんどでした。東南アジアにはカンボジアのアンコール遺跡をはじめ数多くの世界遺産があります。インバウンドを増やしていくためにも、このような対策だけでなく衛生面や環境問題、交通機関など様々な課題に力を入れていく必要があるのだと思いました。

## (2) 感想

また今回この研修旅行を振り返ってみて感じたことが3つあります。一つ目は、自分が想像していたよりバンコクは治安も環境もよく人もお穏やかで優しい人が多いということです。

二つ目は、英会話力のなさです。今回訪ねた財務省や PIM だけでなく、アジアティーク・ザ・リバーフロントで買い物をする際にも英語で会話をしました。聞き取ることはできても自分が伝えたいことがなかなか相手に伝わらず、自分の英会話力を恥ずかしく感じました。世界の共通語である英語をこれからもっと勉強していくべきだと感じました。

三つ目は、もっと視野を広げ全世界に目を向けていかなければいけないことです。私は将来、観光に関わる職業に就きたいと考えています。これからの日本の経済にとっても ASEAN は深く関わりを持ち続けるので、観光業で働くためには自国はもちろん世界の文化や歴史、情勢などしっかりと勉強していくべきだと思います。また、今回初めて海外へ行き、やはり実際目で見なければ分からないことがたくさんあったので、学生のうちにたくさんの地域を訪れ、その地域の現状や文化を知るべきだと改めて思いました。

今回、財務省の局長さんや日経新聞のバンコク支局長さんと懇談させていただいたことやタイの学生と交流し、様々な企業訪問をさせていただいたこと、タイ料理やタイの文化について学ぶことが出来たことなど、タイで過ごした五日間は日本では経験のできない貴重な体験でした。生徒の代表としてこの研修旅行に参加させていただいたことを誇りに思います。そしてこの体験をこれからの学校生活に活かしていきたいと思います。

## 2-8 眞下 遥

### (1) 研修について

デンソー工場が印象に残りました。日本人が母国を離れタイに行き、日本の最先端の

技術をタイの人に言葉が通じない中、一から教えていました。デンソー工場ではそれ以外に機械の開発もしていて、より使いやすくコンパクトな機械を生み出すことで工場内の領域をひろげ労働者のモチベーションを高めていました。

ASEAN では日本企業は最もタイに多く進出しており、タイ進出の日本企業は 3900 社を超えています。そのためか、タイでは日本語を話せる人が多くいました。パンヤピワット経営学院でのタイの大学生との交流も、皆さん日本語がとても上手で英語もタイ語もうまく話せない私は恥ずかしくなりました。タイではほとんどの人が英語をそれなりに話すことができていましたし、母国語に加え英語を話し、日本語も話せるのでとても尊敬しました。私も英語の勉強を頑張ろうと思うきっかけができました。

## (2) バンコクについて

タイに行くまで、ずっと不安でした。私がタイに抱いていた印象は「治安が悪い、汚い、田舎」と悪いイメージばかりでした。最初はタイに行くことがとても怖かったです。でもタイは発達していて、とっても都会で綺麗でした。タイの人はみんな優しく、私たちを見るとすぐ「サワディカ〜」と挨拶をしてくれます。全く知らない人だけど、元気に大きな声で挨拶されるのはすごく嬉しくて、日本では滅多に見られない光景でも新鮮でした。そして、日本人のタイ人から学ぶべき所でもあると思います。

私たちはバンコクで最も高いタワー、バイヨークタワーに行きました。そこで西日が照らすバンコクの街と暗くなり夜景が綺麗なバンコクの街を見ました。タイの街は高層ビルがたくさんあり、道路は広く公園も綺麗です。私の印象とは全然違いました。

タイの街並みを見ていくつか驚いたことがあります。まず、電線がとても多いし線が垂れ落ちて人の手がすぐ届くところであってとても危ないと感じました。それから、交通が乱れ、車と車の距離は近く渋滞が多いと思いました。道路ではバイクに三人乗りするのを多々見かけていましたが、たまに四人乗りをしている人たちもいて、見つけた時は本当に驚きました。ほかに、タイには日本では見たことのない日本のアニメキャラが描かれた派手なバスや、窓とドアがないトゥクトゥクという乗り物があります。また道路を走っていると、よく人の絵が描かれているキラキラした門や看板を見かけます。猫や犬もたくさん見かけます。

タイの食べ物は、辛かったです。緑色の小さな唐辛子は食べてしまうとしばらく口の中がひりひりして味覚が麻痺してしまうくらいとても辛いです。本場のトムヤムクンもとても辛かったです。でもココナッツミルクが入っていて飲みやすく、すごくおいしかったです。一番印象的だったのはヤムソムオーというサラダで、ポメロというグレープフルーツに似たフルーツを使った辛いサラダです。今までに食べたことがない味でも新鮮でした。デザートに食べた揚げバナナは本当においしくて、今度作ってみようと思うほどでした。そして、タイではよく日本のごはん屋さんを見かけました。大戸屋、FUJI、日本亭、タイにはお食事処以外にもたくさんの日本企業があり、伊勢丹、KOSEI、セブンイレブン、ファミリーマートがありました。街中でよく見かけたのはセブンイレ



ブンで、日本のセブンイレブンに比べ生活用品が安く、豊富にそろえられていました。

タイのお寺はルールが厳しいです。わたしは長ズボンで行ったのですが、まさかダメージがあるズボンがだめとは知らず、見事ルールに引っかかってしまいました。幸いなことにお寺ではお洋服を借りることができたので、腰にタイ風のエプロンのような布を巻いて、ワット・プラケオを見学しました。タイのお寺は建物が丸く縦に高いので日本のお寺とは真逆な感じがしました。とにかくどの建物もキラキラしていて輝いていてすごく豪華で綺麗でした。

今回バンコク夏季研修旅行に行けたことで、私はもっと英語を勉強しようと思いました。そしてタイが私の想像をはるかに超えて綺麗で進化していることに驚きました。今ではタイが好きで、大学見学を通してタイの友達ができたととてもうれしく思っています。また個人でもタイを観光しに行こうと思っています。本当にバンコク夏季研修旅行に行ってよかったです。

#### 関連写真

撮影： 加賀美充洋

(なお表紙写真は、ワット・プラケオの回廊壁画「ラーマキエン物語」より)



ワット・プラケオ 1



ワット・プラケオ 2



チャオプラヤー川



バンコクの高速道路



夕暮れのバンコク



PIM の学生たちと（タイの学生は制服を着ている）



お寺の服装規制